

保健室だより

平成28年度第4号 千葉県立千葉南高校保健室

ありのままの自分を受け入れ、自分らしく生きること

今年4月下旬から5月8日頃まで、LGBT(性的マイノリティの人たちのこと)が差別や偏見にさらされず、自分らしく当たり前で生活できる社会の実現を目指したイベント「東京レインボープライド」が行われたよ。ニュースで見た人もいるかな。私の友だちも参加してたんだ。

5月7日の千葉日報には「LGBT への暴言8割経験」という記事が掲載された。アンケートに回答した25歳未満のLGBT 当事者約450人のうち、86%が「オカマ」などの暴言を教師や生徒が言うのを聞いたことがあると回答したそうだ。そもそも「LGBT」という言葉があること自体がもしかして差別なのかもと思う。性的指向のうち、異性を愛する「ヘテロ」で、自分の生物学的な性と心の性が一致している、いわゆる「マジョリティ」が「普通」って思ってる人多いでしょ?で、そうでない人を「マイノリティ」として別の言葉でくくってしまうとそれは「普通じゃない」って言ってるみたいにも聞こえてくる。そんな分類が存在しなくなるのが一番いいんじゃないのかな。

私は23年前にある一人のHIV感染者さんと出会った。理不尽な現実にもまっすぐに向き合い、それでも超プラス思考で生きる彼は、私の尊敬する人物となった。それをきっかけに、エイズをとりまく様々な問題とかがわってきた。ボランティアや講演活動、学会などで、様々な人とかがわるうちに、エイズだけでなく「生きる」ということに着目した活動へとシフトしてきた。それを通してゲイのお友だちもたくさんできたよ。

「自分らしく生きる」ってどういうことか、みんなの中にも未だ考えあぐねている人は多いと思う。LGBTについて考えることは、決して他人事じゃないと思うんだ。誰でもが向かい合う自己実現という課題と共通してるんじゃないかな。

勉強は楽しい

私は勉強が好きだ。「勉強」って言葉が「嫌なことを無理矢理強いられてる」イメージを作ってる気がする。

学校が無かった時代にも、物知りの方のところに読み書きを教えてもらいに行ったりするってあったでしょ?

今の時代だって、本当は学びたいのに住んでいる国の環境が整っていないために、毎日水汲みに多くの時間を費やして学校に行けない子どもたちもたくさんいるよね。

「知らなかったことを知る」「わからなかったことがわかるようになる」「何かができるようになる」って、本当はすごく楽しいことなんじゃないの?

南高生だった頃、倫理以外、社会科系の教科はすごく苦手だった。何しろ覚えられないからテストで点数もとれない。そりゃそうだよね～。ぶつ切りのできごとをひたすら記憶することは、私にとって苦痛以外の何物でもなかった。(そういう勉強方法しか知らなかったんだ)38Rだった時、クラスに日本史の天才がいた。何度テストをやっても100点。どうして覚えられるのか、すご〜く不思議だった。

だけど、この前「読むだけですっきりわかる日本史」という本に出会った。この本の前がきには「対象：歴史嫌い。歴史が苦手な人。」とあった。速攻購入。文庫版で335ページ。これで旧石器時代から少子高齢化、格差社会まで概要だけど歴史の流れがひといきにわかった。もっと早くにこんな本に出会えてたらなと思う。困みに「読むだけですっきりわかる世界史」も買ったよ。なんで今、保健室で働いているのに歴史の勉強がしたいかって?答えは単純。知りたいからだよ。競技かるたに出会って古典にも関心が高くなった。語学ももっとできるようになりたい。本当は授業にもぐりこんでみんなと一緒に勉強したいくらいなんだよ。